

## 「機は熟した」―第3回大学情報サミット大会の開催

■ITC本部課長 金子 康樹

慶應義塾は、2008年創立150年という大きな節目の年を迎え、11月には日吉キャンパスにおいて、盛大に式典が開催されました。ITCも、式典の中継支援を実施いたしましたが、これについては、本年報にて別途報告させていただいております。

その式典の興奮も冷めやらぬ12月に、三田キャンパスにおいて、創立150年式典とはだいぶ規模が異なりますが、大学の情報部門関係者にとっては、非常に意義のある大会が開催されました。本稿では、この知る人ぞ知る大会の実施についてご報告させていただきたいと思っております。

### 1. 「大学情報サミット」とは

規模の大小を問わず、いまやコンピュータ・ネットワークを使っていない大学、というのは国内には無いと言っても過言ではないでしょう。これらのコンピュータ、ネットワークを使うには、それを管理・運用する組織が必要になります。もしかすると、「私の大学では、組織ではなく、担当者が一人いるだけですべての管理をまかされています。その人がいなくなったら、どうしたらいいのでしょうか」という大学もあるかもしれません。もっとも、組織としての情報部門があっても、担当する業務が多く、一人のスタッフが抱える業務テリトリーが多くなってしまい、結局「この人がいなくなったら、どうしたらいいのでしょうか」という大学もあるかもしれません。

情報技術の進歩は著しく速く、その利用範囲は常に拡張し続けています。新しい技術動向に目を配りながら、利用者に満足するサービスを提供し続けるためには、担当者はいろいろな問題点に常におつかります。こうした問題点というのは、実は多くの大学が共通に抱える問題点であることも少なくありません。ひとりの担当者だけで解決策を考えるよりも、複数の担当者で解決策を考えたいほうが良いのと同様に、ひとつの大学で解決策を考えるよりも、複数の大学で協力して問題解決にあたるのが、それぞれの大学の構成員に対するサービスの向上に大きく役立つと考えられます。

このように、各大学の情報部門のスタッフが、個々の大学の枠組みを超えて、さまざまな課題を協力して解決するための集まりとして、慶應義塾大学、中央大学、法政大学、明治大学、立教大学、早稲田大学の6大学が参加して、2005年に「大学情報サミット」が発足しました。

大学情報サミットでは、隔月ごとに幹事会を開催し、会の運営や方針を話し合うほか、勉強会を実施しております。また、年度ごとにプロジェクトを立ち上げ、現場スタッフの

人材交流を深めながら、共通の課題解決に取り組んでいます。そして、年に1回の頻度で、「大学情報サミット大会」を開催し、「大学情報サミット」の活動を広く公表し、社会貢献に役立てる活動を行っています。

## 2. 第3回大学情報サミット大会

慶應義塾大学は、2008年度の大学情報サミットの代表幹事を務め、拡大幹事会の運営などを行いました。その集大成として、第3回大学情報サミット大会を、2008年12月22日(月)三田キャンパス北館ホールを会場として開催いたしました。開催校を代表して、ITC所長である中村洋経営管理研究科教授の挨拶があり、引き続き、基調講演が行われました。

今回の大会は、開催幹事校としての「慶應義塾らしさ」を意識したプログラムを検討し、基調講演についても、塾員の中で、情報システム部門でご活躍されている方に照準を絞り、オリンパス株式会社執行役員で、IT統括本部長をされている西河敦氏(1975年商学部卒)をお願いをいたしました。西河氏からは、「『山を越えて中原に出よう!』オリンパスのIT改革」という演題で、IT戦略の推進とプロジェクトを成功に導くために考えるべきことなどを、企業での事例を踏まえてご講演いただき、今やっていることの全体像を共有し、一丸となって「山」を越えて、IT部門として本当に役立つ仕事をしよう、という励ましのメッセージをいただきました。

引き続き開催幹事校代表者講演として、開催時のIT担当常任理事であった村井純環境情報学部教授より、「グローバル情報社会における大学の役割」というタイトルで、現在の研究環境を取り巻く情報ネットワークの活用の最先端事情の紹介と、それらに対して大学の果たすべき役割についてのご講演をいただきました。

その後、小林ITC本部事務長からの一年間の活動報告の総括、さらに2008年度実施の各プロジェクトについての各プロジェクト代表者からの活動成果報告がありました。2008年度は、「理想的な利用者支援モデルの構築」(発表者:早稲田大学・柴山拓人氏)、「セキュリティに関する共同研究」(発表者:早稲田大学・若林久芳氏)、「職員の人材交流」(発表者:立教大学・佐藤雅信氏)の3つのプロジェクトを実施し、その発表内容は、情報部門に共通する課題点を取りあげていたため、参加者の方も熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

大会では、今後も参加6大学の情報部門の相互関係を深め、各大学の教育・研究への貢献を促進し、広く成果を社会に還元していくことなどを宣言した共同声明が発表され、参加大学の代表者による署名が行われました。閉会の挨拶を、早稲田大学メディアネットワークセンター所長深澤良彰先生にいただき、3時間40分におよぶ長丁場の大会は、無事終了しました。

会の準備・進行は、イベント素人のITCのスタッフのみで行いました。イベントの中継のお手伝いなどはお手の物なのですが、企画から会場手配、講演依頼、パンフレット作成、たて看板の作成、受付の準備、演題の花やら壇上者のリボンの手配、始めから終わりまで、すべて素人作業で、様々な部署の方々や、他大学のみなさまにアドバイスをいただきなが

ら、なんとか格好つく形に治めることができました。

大学情報サミット参加大学、その他の大学、企業、自治体、財団法人など、多くの機関から194名の方にご参加いただきました。お越しいただいた皆様にも、概ねご満足いただけたようで、ほっと胸をなでおろすことができました。

参加者の中には、関西地区の4つの私立大学（関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学）の情報部門の方にもお越しいただきました。関西地区でも、同じような情報部門の連絡会の立ち上げを検討中ということ伺い、「機が熟してきたのだ、私達の考えは間違っていなかったのだ」と思わず感涙にむせびました…というのはいささかオーバーですが、今後、西と東で新たな協力体制が芽生えて、より多くの仲間達とともに、教育・研究支援のためのサービス向上を図っていくことが期待できる、非常に意義の深い大会となりましたことは、主催者として何よりの喜びでした。



参加大学代表者による署名